

豊橋市議会傍聴記

地政局

伊藤
秀昭

豊橋市議会6月定
例会は6日から一般
質問を行い、18人が
登壇し多角度からの
質問を展開した。

正確な把握は困難です」と答弁した。

車券の業者への支払方法が、使用済みの枚数でなく、利用申し込みの8割が利用したとみなして支払いが行われていることを問題視した。福祉部長は「電車や路線バスでは運賃箱に乗車券が投入されることから、

する面もあるが、援助事業の在り方そのものを検討するためにも取り組むべきではないか。◆郊外集落のまちづくり

とち街たは制設成パに宅

建設許可の緩和を加え、同時にコンクトな集落の形成のためのエリア指定を前提とした度作りが必要でないか」と提案し、が、郊外集落や市化調整区域のまづくりの困難さ、その先頭に立つ

難者数を5万人設定し、1日3万3千人間提供でき45万杯を確保し、内26カ所に飲料兼用耐震性貯水庫を用意している」答えた。

また、発災時にける職員募集の課題や避難所運営における

質問した。益城町では災害対策として機能しないくらい町金で使い使いで遭い使用で乱したこと、厅舎の耐震が機能した合の対応に合した。

宇土市で
東本部とし
なければならない
が被害に

◆JK広報室

◆長坂尚登氏（豊橋）

の防犯対策についても聞いた。

近藤氏は自助、共助、公助の連携と地域防災力の強化についても問題視したが、現場に即して議論を深めていただきたいテーマだった。

長坂氏は小学校などの維持管理、小学校数と児童数の推移、保育園などの費用についても質問したが、それらを踏まえたが、それらを踏まえた上で政策議論を期待したいのだが、今回もなされなかつたのは残念だった。

◆男性が質問する

た。文化市民部長は「壯年層をターゲットにした講座内容を充実させ、男性意識の改革を図っていくことが最も重要です」と答弁していたが納得できる議論だった。

熊本地震の教訓を生かせ

くりを進めていく
が、果たして国がい
うように居住や民間
生活利便施設を誘導
することなどができる
のか」と問題提起
したのは杉浦正和氏
(自民)。

◆熊本地震の教訓　この決意に満ちた懸命な議論だった。

るマニフェアルの実施性、市民病院の設置機能の確保策や免責構造など「安易な」持ちでは減災対策は進まない」ことを指摘して、きめ細かく質問した。

危機管理統括部長は「庁舎西館4階を災害対策本部として機能しなかつた場合は通信機能を持つ中消防署3階を代替え施設とする」とした。

また住宅の耐震化や家具固定、災害廃棄物処理、被災家屋

だいすき会」は市民団体から名称変更の申し出があった「JK広報室」について質問した。

「今回男性という特質をもった一人の議員として、同います」として男女共同参画について質問したのは星野隆輝氏(まちフオーラム)。